

# 災害記念公園と樹木の果たす役割

## —台湾の新開部落災害記念公園と小林村災害記念公園を事例として—

陳 喬琪

キーワード： 記念物、記念性、記念公園、天然災害、樹木デザイン、住民参加、台湾

### 1. 背景

近年、大規模な災害の後に犠牲者を追悼するための記念公園が建てられる傾向にある。台湾では近年、2カ所の自然災害記念公園が新設されたのだが、これらの記念公園では、興味深いことに伝統的な石製の記念碑や記念物の代わりに、「樹木」を記念物として用いている。樹木は、一般的に公園において装飾的役割を担っているが、本研究のケースでは重要な記念物としての役割をも担っている。そこで本研究では、この記念樹の存在意義が災害被害者のグループと被害者でないグループでどのように異なるか、記念公園の中で記念樹がどのような役割を担っているか、という観点から調査を行った。また、記念樹を用いた記念公園設計の傾向や、その他の記念の役割を担いうる物を明らかにすることも目的とする。

### 2. 調査地

2009年8月に発生したTyphoon Morakot(平成21年台風第8号)は台湾に上陸するとともに、記録的な豪雨をもたらし、600人以上の死者を出した。これにより最も深刻な被害を受けた町に、新开部落災害記念公園と小林村災害記念公園という2つの記念公園が新設された。なお、これらの記念公園はどちらも台湾の南部高雄市に位置している。新开部落災害記念公園は2011年に開園し、小林村災害記念公園は現在進行中の計画で2012年に開園予定である。これら2つの記念公園は、樹木を記念物として用いるという共通の構想を有している。

### 3. 研究方法

記念碑や記念物の存在意義を明らかにするために、それらに関する文献を総括することが重要である。本研究では台湾で特に重要ないくつかの記念公園に関してそれらの設計計画を比較することで、樹木の設計意図の傾向や記念物としての意義を整理・選別した。記念樹およびその他の記念物に対する価値観の違いを明らかにするため、新开部落災害記念公園周辺居住の犠牲者に近い60人の地域住民と、50人の一般の人々に対し、アンケート調査を行った。

### 4. 結果と考察

設計計画の比較とアンケート調査より、記念樹に対する選好や、記念樹に対して抱く意義は、グループ間で異なることが明らかになった。災害の影響をより一層強く受けた人ほど、記念樹に対してより強い思い入れを持っていた。記念物の持つ意義や外形の差異は、社会・文化・個人間の価値観の差異を反映している可能性がある。

また、住民参加の重要性も指摘された。長期にわたって存続する公園を作るために、住民参加は不可欠な要素であった。また、本研究の事例では、地元住民や被害者家族は彼らの文化や経歴に基づく意見を提供することで、どのような記念物が彼らにとってより有意義かを定めることができた。そのため、先住民や中国の犠牲者追悼の文化に基づく記念樹のデザインが採用され、公園中において記念樹はその他の記念物よりも治療効果が高かった。